



【No.75】



【2015年9月 発行】

## 気功は一生の生命体験です。

一、気功は人体科学だけではなく、治療技術としてだけでなく、新しい生命の体験方法です。人生において実践すべきものです。

二、気功は無限の宇宙と有限の生命の平衡を探究するものです。

1、気功で解決したいことは有限の生命个体と生生不息の無限な宇宙との間の矛盾です。

空間のところから見ると个体生命と宇宙万物は水滴と滄海ほどの違いがあります。時間から見ると人類は生生滅滅です。でも生活している世界は永生永在です。それに対しては人類の心理はとても不平衡です。納得できないことです。どうやって無限の宇宙と同じになれるか、それが気功の仙人思想意識です。

2、西洋の分析法では自然は人類が探索する相手として認識します。自然の規律を発見して、それを利用し、人類に活用します。

深く近く自然を理解する。それは西洋科学観と言えます。

## 三、中国哲学観

1、整体観念は世界のすべてに対して整体的に統一的に把握します。決して自然と対立しません。自分自身と自然は同一、統一、完璧の和諧なのです。

2、気功練功の中で生死、物我、同一の境界を体験します。

人類个体は時間と空間の限りを超越して宇宙と一体融合します。

3、練功の目標は練功しながら漸々深い体験が出てきて知識の幅が広くなり、人生を悟り、天地宇宙と一体化して仙人になることです。

4、生命を“草木枯栄、万物興衰”と認識します。それは天地宇宙の規律です。人類は天地宇宙の一部で生死は同一のもので“宇宙の目”が心の中に生まれ、身は社会生活の中に浮き沈み、心も静観の中に浮いては沈みます。奔騰不息の生命の流れの中に融入します。

#### 5、過去を認識する。

記憶の中で過去は美化されることが多いです。しかし過去は過去です。私たちは現在が将来は過去になることが見えています。ですから今日の生活をもっと大事にして豊満で寧静、幸福、微笑みの毎日を過ごすことです。それが全て将来に美妙の記憶となります。今日と同じ日は二度と繰り返すことはありません。ですから美酒を飲み、美しく舞うような生活をしてください。

#### 四、理性と直感の平衡を重建する。

1、言葉が出来る前に人類は自分自身の生命で自然と会話していました。心身の体験で自然を理解していました。

言葉、数字、符号が出来ると自然万物は実在の状態から抽象化されました。名詞概念が数字や符号になりました。人類の認識も低い所から直感出来ないほど遙かな峰のような所まで行きました。

人類の文明は大幅に進歩しました。文明の発展の副作用は感覚を退化させました。人類は漸々、機界言語世界の霧の中に迷失してしまいました。

色々な分野で概念のシステムを作りました。言語文字の上で激しく争論しました。そして真理が見えなくなりました。思想で

の听、見、感、味となり、身で听、見、感、味を体験することを忘れました。人類の本能は退化しました。

2、現代理性がある時、それはズボンをはいた猿のようです。ズボンは社会の倫理、道徳のようなものです。猿はズボンをはくと自分は人間になったと勘違いします。社会倫理を守る抽象事物になりました。長く続けると自分は猿であることを忘れてしまいました。ズボンが自分自身と違います。

3、現代理性の副作用は眞実世界の感覚を忘れました。人類は漸々眞実と離れます。現代科学において自然は探索、征服の対象になります。この方式で自分自身を認識する時、人類は眞実の自分ではなく、思いの中の自分になります。

4、原始気功について  
デイスコのルーツを辿ると元はアフリカの原始舞踊です。世間に発表されるとすぐに文明社会に広がりました。飛速で普及しました。

人類が自然を崇尚することは本性です。老子の言葉に「絶聖棄智」大智者は、智”が見えません。という言葉があります。とても自然な在り方です。仙人の根は大地の

氣に一番近いのです。氣功は現代文明と自然の本性をつなぐ唯一の糸と言えます。

#### 五、もう一つの事物の認識方法を獲得する

1、私は7歳から氣功を始めました。

初めての氣功体験は身が熱くなったことです。私は先生に「とても身が熱くなりました。これでいいですか。」と尋ねました。先生は黙って軽く頭を横に振りました。再び入静状態に入りました。身が軽くなりました。飛び入るような感じでした。「身が軽くなりました。これでいいですか。」と先生に尋ねました。先生は頭を横に振りました。再入静を続けます。先生は毎回頭を横に振るばかりです。

一年後、何も聞かず、何も思わず入静状態に入ると言葉では表現できない状態に入りました。先生は笑顔でうなずいて下さいました。

2、氣功で認識する方法は一般的に認識する方法とちがいます。普通の認識思想は自分と認識するものを分けます。それは相手であり、対立する存在であり、自分の目の前に置きます。氣功の方法で認識するのは物の中に融合するように入っていきます。私が先生に自分の感じたことを尋ねた時に

先生が頭を横に振る理由は私がまだ感じた物の外にいたからです。中に進入していなかったのです。私を感じたのは物の表象と言います。真実を完璧に認識していないのです。ことの本身ではありません。ものの中に進入することはとても大切です。信じるとか信じないというレベルではありません。それはものの外に立っての認識です。

3、入静は直接物の内部世界に入ります。気功的に花を見る方法は目で見るより花になることです。自分と花の区切りを取り除いて花に溶けて行きます。花のように咲きます。花と一緒に光や雨を受けます。花と会話し、花のすべての秘密を知ります。喜び苦しみを知ります。

この方法で花から宇宙まで知ることが出来ます。自分の本心も認識します。これが気功の認識方法です。

4、現代社会は人と自然が漸々離れてきています。真実自我の認識の貧困感からストレスと不安が生まれます。現代病も発生しました。人類の健康の目標は十分に完善に自身を発展させることです。それに対して気功の方法は最善の方法です。

## 六、気功学では人と自然は一つの整体です。

人と自然の和諧同一は宇宙万物の特定本性で発展します。自然の規律です。

現代科学技術の発展の為、自然環境の破壊が日増しに厳しい状況です。人類の生存発展は環境悪化を招きました。自然の氣を守ることは人類生存の源です。

科学の進歩は人類の認識が深く進化していくことと離れません。人体生命科学は各種科学の研究の峰に立ちます。

人類は思想認識の境界を突破出来ないとし、科学の発展は空話となります。気功は生命の認識、智力の開発に完璧な理論と修練のシステムを持っています。生命科学研究の良好な基礎です。

宇宙を認識し、自身を認識するには現在有る意識方法だけでは足りません。潜在意識のレベルに入らなければいけません。自身の潜在状態に深く進入して、新しい自身を認識します。自身と自然の合一で生命の真実がはっきり見えてきます。練功の外在の能力ではなく、自分が本来持っている能力の開発です。

人は益々積極的になります。もっと円満快樂な生活をする事で生命力はずっと最佳の状態を続けます。

気功は独立して存在するものではなく、

全人類の文化と融合しなければなりません。自然の規律を守りながら東西文化の調整と発展のために大きな役割を担っています。

## 趙光宗師と于雷氣功

西苑医院氣功科は1959年に創立され、50余年の歴史を持っています。氣功科の設立は、元毛沢東の保健氣功師、劉貴珍氏の氣功医療に起因します。中国衛生部が、当時氣功医療が存在していた中国中医科学院西苑医院に氣功科設立の立案をし、氣功科設立を押し進め、1959年に氣功科が設立されました。

西苑医院氣功科の第一大師は、趙光宗師(于雷師の師)です。趙光先生の家はたいそう貧しく、幼少期は病弱な少年でした。先生の兄弟は皆35歳になる前に病気で亡くなりました。先生自身も何歳まで生きられるかと、不安な日々を送られたそうです。20歳のとき下痢を患い、長期間治療してもよくなりませんでした。そのとき一人の友人(その後兄弟子になる)に出会い、氣功を勧められました。友人の師は、今の治療を全て放棄し、氣功の練功だけするように助言しました。練功の効果は大きく病氣は

良くなり、趙光先生の心には気功への強い興味が生まれました。その後、儒家、仏家、道家の名師を歴訪し、謙虚に教えを請い、一代の大師になられました。

外気は昔から行われていたが、2500年前に応用の記述があります。最初の外気は皇家保健院、皇帝家族保健寺、道観、同じ流派、師匠と弟子間の交流等、小規模で使う技術でした。

1980年代、気功科の外気技術は全国に普及し、中国だけでなく全世界に亘る大規模な中国医療行為になります。

1985年、于雷師が気功科に勤務するようになり、趙光宗師と共に外気技術の開発をするようになりました。

外気技術は、相手と接触することなく病気を診断し治療するもので、外気療法ともいいます。趙光宗師と于雷師によって行われ



た外気療法は、気功外気の物理学、生物学、生理学の臨床研究も行われた気功科の主治療法です。国内外の新聞や雑誌は、外

気療法を紹介し、現代気功傑出のための大きな貢献だと絶賛しました。

80年代末、ハーバード大学などの名校も気功科を訪れ、アメリカや日本のテレビ(NHK)なども外気治療の報道をしました。于雷師は外国人に対しての気功教育、授業、治療の全過程に参加し、1988年にはNHKテレビで外気治療の様子が報道されました。

于雷師は1988年、日本にやってきました。最初は関西、東海道地区を中心に講演活動をし、1990年千葉県市川市に于雷総合気功院を開設しました。その後現

在に至るまで、気功伝授、普及に努力しています。現在、中国中医学院気功科と共に国際気功師認定活動を行い、今までに10

人が気功師の資格を取りました。これからは全国的な往診活動を展開していきます。気功師の経歴、技術をホームページで紹介し、国内外の皆様に必要なサービスを提供しております。

## 【ホームページ】

于雷先生のホームページのアドレスです。皆様のパソコンやケータイ電話に登録していただき、定期的にご訪問くださいますようお願いいたします。

于雷気功大師の外気実演動画掲載中です。

<http://yurei-kikou.com>

皆様がどんなことを思い、悩んでいるかを分かち合う場になれたらと思います。

期間誌「気」の発行が、皆様と一緒に楽しみに、より良い形で長く続くように皆様の応援をお願い致します。

一人一部以上の購入をお願い致します。

応援価格 一部 二〇〇円

編集責任者 于雷

編集スタッフ 植松 恵美

山本 教子

小林 達志 他

連絡先 ☎090・2936・7134